

祇園精舎 表現分析

【ねらい】『平家物語』「祇園精舎」の文章は、読んでいて自然とリズム感があるような文体である。その文体を分析することで、この文章の「読みやすさ」を理解し、暗唱できるようにしてほしい。

【目標】みんなが、「祇園精舎」の表現の特徴を自分の言葉で説明できる。

【課題】例に従つて、各表現の「対(ペア)」を見つけ、どういうつながりの対なのか、詳しく記しながら。

【例】①祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり。

②おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。

③遠く異朝をとぶらへば、秦の趙高、漢の王莽、梁の朱异、唐の禄山、

④これらは皆旧主先皇の政にも従はず、

⑤楽しみを極め、

⑥天下の乱れんことを悟らずして、

⑦間近くは、六波羅の入道前太政大臣平朝臣清盛公と申しし人の有様、伝へ承ることぞ、心もことばも及ばれね。